

株式会社ふもとつばら 富士宮市

人と森の距離を縮める 林業×キャンプ場

所在地 富士宮市麓156
業務内容 牧場、農園の経営及び畜産品・農産品の生産・加工・販売、林業及び造園業、キャンプ場、宿泊施設及び飲食店の経営、自然保護、環境整備、食料供給等に関する調査、研究、実施、森林療法の調査、研究、実施 等



概要 取組内容紹介

林業という生業を軸に据え、広大な森林空間を利用したキャンプ場運営をはじめ、木材生産、木質エネルギー利用、農業、ジビエなどを通して、自然体験と日本の木材の素晴らしさを伝えている。



環境課題の解決 多角的な森林総合利用で林業と地域の振興に貢献

環境ビジネスとしての注目すべき着眼点

「もっと森と人間の距離を近づけたい。豊かな森に恵まれたこの地域の魅力を掘り起こしたい」との思いから、2005年にキャンプ場をベースとした体験型宿泊施設「ふもとつばら」が誕生。山に入るきっかけとなるアクティビティを多数揃えている。林業とキャンプ場の兼業が相乗効果をもたらし、今やキャンパー憧れの聖地として年間約20万人が訪れる。



同社では豊かな山を作り育てていくために、植栽から主伐まで、すべての森林管理を手がけている。50年以上かけて樹木を育て、主伐し、また植栽を行う。植栽、育成、伐採の作業を繰り返し、健康的な山を維持している。

このほかキャンプ場以外にも、林業の後継者を育てる人材育成事業や遊休農地を活用した米作りなど、広大なフィールドを軸とした多角的な森林総合利用で環境ビジネスを実践している。例えば、「学びの森」という体験型コンテンツでは、鹿の解体やジビエ料理の振る舞い、牛の乳搾り体験などのワークショップを実施し、未来を担う子どもたちの山や森を守っていく心を育てている。

展望

林業を軸としながら、森林空間を利用したキャンプ場運営や木材生産、木質エネルギーの利用などを引き続き行っていく。また今後は、企業と協働の森づくり、自然体験や修学旅行などの学生の受け入れにも積極的に取り組んでいく。加えて、自社所有林の木材を活用し、木質エネルギーの利用による自社施設のカーボンニュートラルの実現と木材などの資源が地域循環する仕組みの構築を目指す。



背景・地域課題 地域住民との連携を深化させ、地産地消の促進を図る

農地として貸出していた土地が返還されたことをきっかけに、キャンプ場経営を開始した。開始当初はキャンプ場経営のみであったが、常連客からのアイデアを1つ1つ形にしていく中で現在の「ふもとつばら」が徐々にできていった。

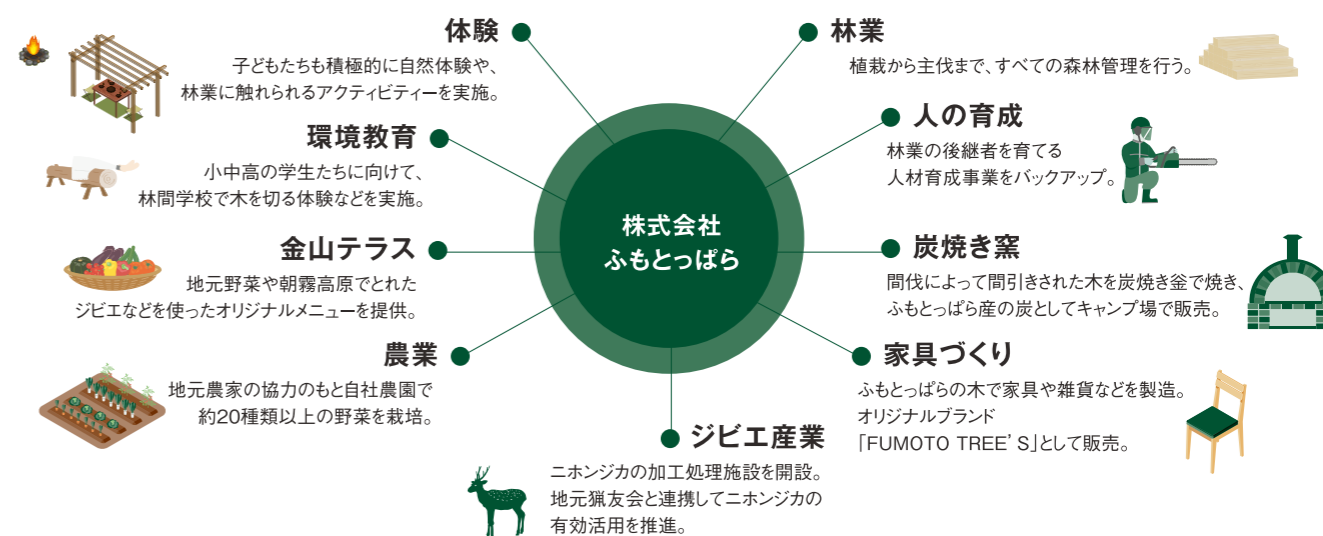
ふもとつばらでは、自社農園の管理や生産は地域住民に委託している。地元食材の調理方法や、培われてきた知恵を得て、運営に生かしている。また、金山テラスに併

設されたブースでは地元の職人による、鹿の革製品なども販売している。このように、地域の方たちとともに、地産地消を目指し、ふもとつばらを運営している。

2015年には「長瀬剛10万人オールナイトライブ」の開催や、最近では人気アニメ『ゆるキャン△』の舞台になったことが話題となり、観光客をはじめ、様々なオファーが集まるようになった。今後、この集客力を落とさないために、常に魅力的なコンテンツを

用意して、自ら仕掛けていく必要がある。また、門戸を広げている分、ごく少数ではあるが、騒がしい来場者もいる。独自の通報アプリをつくり、トラブルに事務局が24時間対応可能な体制を整えつつ、「学びの森」などを通して地道に啓蒙活動を行っていく。

具体的な取組内容 豊かな山を育て守っていくためにさまざまな事業を展開している



今後の活動 人と森の距離をもっと近づけたい。林業の奥深い魅力を発掘して発信

もっと森と人間の距離を近づけたい、豊かな森の恵みがあふれているこの地域の魅力を掘り起こしたいと思い、2005年にアウトドア体験、イベント、個人や団体の宿泊、研修など多様な機能を備えた自然体験施設「ふもとつばら」を開設しました。

おかげさまで年々来場者が増えており、国内はもとより海外からのお客さまも多くなりました。それに伴って、行政や地域と連携して林業、農業体験プログラムを企画する機会も増えてきました。

林業という生業を軸としながら、木材生産、木質エネルギー利用、農業、ジビエ、森林空間を利用したキャンプ場運営などを行い、自然の雄大さ、日本の木材の素晴らしさを伝えていきます。

また現在、修学旅行や企業研修会など、さまざまな自然体験活動の場として山を開放しています。そうして多くの人々に向け、山や森が近くにある希望ある未来の可能性を、ここから発信し続けていきたいです。

株式会社ふもとつばら 代表取締役 **竹川 将樹**

